

勿論本種は日本全域、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンと分布は極めて広い種であり県下でも少し注意すればまだまだ広く多く産する種であろうと考えられる。

尚最後になって申し訳無いが美濃郡下での採集したものはその大部分が蜂谷幸雄氏の手を煩わしている。標本は全部筆者が保管しているが蜂谷氏の御好意に深謝させて頂く。 (AUG. 1986)

(付記)その後1986年9月11日三木市笹原の池で2♀を採集した。このあたりの池にもヒツジグサなどが多くあり、本種の食痕のようなものも多く見られた。恐らく広くこのあたりには分布していそうである。

## エンマムシモドキの記録 (兵庫県甲虫相資料・180)

高橋 寿郎

1986年8月31日神戸生物クラブ恒例の鑑定会々場(神戸大丸屋上)にて同クラブ顧問の東正雄先生から同定を求められた標本はエンマムシモドキ *Syntelia histeroides* Lewis であった。本種の県下での記録は鉢高原〔高橋, 1975〕と云うのがあるがそれ以外の記録は見当らず県下では可成り珍しい種の一つであると思われるので東先生のお教しを得て此処に記録させて頂く。尚先生から採集時の状況も御教示頂いたので次に紹介しておく。

〃養父郡氷の山の高度800m内外の地点でツルウメモドキ *Celastrus flagellaris* Rupr. のやゝ大きな木の根もと近くの朽ちた樹皮を取りのぞいていたとき地面から20~30cm内外の高さで樹皮の裏面にひそんでいた〔越冬から出たのか?〕のを採集した。日時は1986年6月22日で雨後でかなり地面は湿気があった〃と。先生と御子息と一緒に先生の御専門の陸貝の調査・採集に行かれて採集されたもので(このエンマムシモドキは御子息の採集)先生は氷の山・鉢高原・横行溪谷は毎年の様に10数回調査に行っておられるとのことである。

この貴重な標本を検査する機会を与えて下さり、採集時の状況を御教示頂き記録の発表を赦された東先生に厚く御礼申しあげる。標本は東先生保管。 (SEP. 1986)